

ピーマン みおぎグリーン (L³)



公益財団法人 園芸植物育種研究所

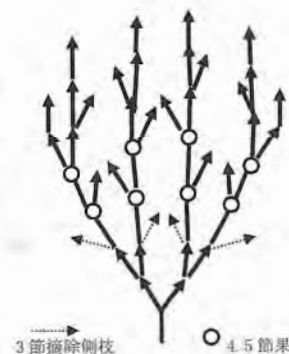
ピーマン みおぎグリーン (L³)

品種特性

- 果形の乱れ少なく、果色濃くつやがあり、果実形質が安定している。
- 1果重30~40g、「みおぎ」と比べてやや小さめでそろいのよい果実。
- トウガラシマイルドモットルウイルス (PMMoV(P₁)) に抵抗性 (L³) があり、青枯病に対して「みおぎ」程度の抵抗性がある。

栽培の要点

- 初期から着果がよく、成り疲れし易い品種なので、この性質を補う栽培技術は初期から強めの草勢を保ち、側枝の伸びを安定させることである。そのためには、旺盛な株作りが必要になる。若苗の定植や1~3分枝の花を摘んで初期から草勢を強めにする。
- V字4本仕立てで主枝を太く、側枝発生を安定させる。(右図参照) 4~8ヶ月間の収量を決めるのは初期の着果数で、3節側枝は元から摘除し、4,5節側枝は1,2果収穫で整枝し、果数少なく、肥大を早く草勢を維持することが初期収量確保と定量出荷になる。
- 草勢が弱い時は着果負担をへらすため25gで収穫し、強い時は40g収穫を目標として草勢を保つ。
- 追肥は、1t/10a収穫する毎に窒素成分3kgを目安とし、高温期は1回の追肥量を少なくする。
- 青枯病に一定の抵抗性を持つが、発病する圃場ではピーマン台木「台助」に接ぎ木し、1節多く摘果する。



公益財団法人 園芸植物育種研究所

〒270-2221 千葉県松戸市紙敷 2-5-1
TEL. 047-387-3827 (代) FAX. 047-386-1455